

## 組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 歯医学総合研究科歯学系(基礎系)教員  
歯学系(臨床系)教員・病院教員

組織目標		達成状況(成果)
(下記4項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教 育	<p>1) 一般コースおよび臨床専門医コースを中心とする履修コースを充実させる。また各専攻系のコースワークならびにセミナーを継続的に実施し、その効果を評価・検証するとともに、卒業臨床研修と連携したキャリアパスの確保に努める。</p> <p>2) 各種学生支援事業に積極的に取り組み、学生の経済的支援や学習環境の整備に努める。</p> <p>3) 大学間ネットワーク「口腔からQOL向上を目指す連携研究」の計画に基づき、国際的に通用する研究能力を持つ大学院生の育成を進めるために、大学院生の国際学会出席や短期留学制度、他大学との連携強化に努める。</p>	<p>1) 一般コースおよび臨床専門医コースのカリキュラムをブラッシュアップし、シラバスを充実させた。また、8月1日には、研究デザインワークショップを実施し、大学院生の必須科目として研究計画立案能力を開発支援した。各専攻系のコースワーク、ならびに、各専攻系主催のセミナーを実施した。卒業臨床研修制度、特に後期研修を臨床専門医コースに関連づけて臨床系の大学院生の就学支援を行った。</p> <p>2) 大学院GP事業「医療系大学院高度臨床専門医養成コース」の継続事業が、学内教育COE経費として採択され、大学院生の履修を支援するウェブベースのポートフォリオシステムがブラッシュアップされ、試用中である。</p> <p>3) 「口腔からQOL向上を目指す連携研究」の計画に基づき、大学院生の国際学会出席や短期留学の経済的支援を行なった。また、再生医療、口腔からQOLを向上させる医療、摂食・嚥下リハビリテーションの3事業に対して研究スカラーシップを配分し、大学院生や教員の研究支援を行った。</p>
	達成度： ④ 3 2 1	
研 究	<p>1) 学部長裁量の助教籍(若干名)を活用し、歯学系内での基礎研究と臨床研究の橋渡し(トランスレーショナル・リサーチ)の体制構築と将来展望に基づく戦略的な人員配置方法について検討する。</p> <p>2) 理化学研究所との連携大学院構想に参画し、歯学分野に分子イメージングの手法を取り入れた学際的研究を推進する。</p>	<p>1) 歯学系内での研究資産を活用し次世代の教育・研究者を養成するため、基礎研究と臨床研究の「融合型研究指導体制に関する申合せ」を制定した。継続してトランスレーショナル・リサーチ推進の体制を学学部部長構想検討WGで検討する。</p> <p>2) 理化学研究所との連携大学院に参画し、カリキュラム等を整備した。岡山分子イメージング高度専門人材育成事業が、文部科学省の平成22年度「分子イメージング研究戦略推進プログラム」に採択された。これに関連してキックオフシンポジウムと記念式典が、文部科学省、独立行政法人理化学研究所、独立行政法人科学技術振興機構、(財)岡山医学振興会、及び(財)積善会の協力を得て平成23年2月2日に開催された。関連事業であるおかもまメディカルイノベーション(OMIC)事業には、歯学系からも研究協力教員として浅海教授が参画し、医学系や薬学系と共同して、産学官連携事業を推進している。</p>
	達成度： 4 ③ 2 1	
診 療	<p>1) 各専門診療科は増収に努めるとともに、患者サービスの向上により利用される病院を目指す。</p> <p>2) 電子カルテ移行後の医療情報システムならびに診療体制の充実を図る。</p> <p>3) 医科・歯科統合病院のメリットが生かした連携医療に努める。</p>	<p>1) 歯科系全体で平成23年1月の時点で前年度比で約6%増収となっている。院内表示の全面改修や歯科障害者医療施設の拡充と充実を図った。</p> <p>2) 定期的に歯科系外来医長連絡協議会によって電子カルテ導入後の問題点についての抽出抽出と解決案を作成し、医療情報システムならびに診療体制の充実を図った。</p> <p>3) 医科歯科の連携医療の推進として、医療支援歯科治療部(高度医療支援歯科部門・周術期歯科管理部門)を新たに設置し、医科における移植患者、易感染症患者、腫瘍患者などに対する歯科治療および口腔ケアの対応ならびに周術期患者の歯科治療、口腔ケアおよび口腔機能支援を行う体制を構築した。また歯科系患者(口腔外科)のICUでの術後管理など医科施設の利用など医科歯科統合のメリットを生かした医療の充実を図った。</p>
	達成度： ④ 3 2 1	
社 会 貢 献	<p>1) 研究成果の情報発信源として、同窓会や公開講座への協力を進める。</p> <p>2) 臨産学官の連携によって、研究成果の医療や産業への展開を推進する。</p> <p>3) 地域の中核病院として病診連携を進める。</p>	<p>1) 同窓会と協力し岡山歯学会を開催すると共に、同窓会理事会・女性セミナー等の開催にも協力した。</p> <p>2) 歯科充填材料、抗菌物質、成長因子を用いた歯槽骨再生材料等、多数の産学官のプロジェクトが進んでおり、基礎研究の成果が臨床現場に活かされている。</p> <p>3) 歯科障害者医療の地域連携の中心的役割を果たすため、従来の特殊歯科総合治療部の改組を行い、スペシャルニーズ歯科センターとして病院の中央施設としてセンター化をはかり、中四国の拠点としての体制を整備した。また岡山大学病院歯科系の先端的診療内容を地元新聞で紹介している。</p>
	達成度： 4 ③ 2 1	
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 ( 抜 粋 )
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法：前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法：4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年：正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。